

世界的ファッションスタイリスト、パトリア・フィールドの アートコレクション展「ハウス・オブ・フィールド」展開催

1960年代から半世紀をかけて収集した作品約130点を一挙公開

中村キース・ヘリング美術館(山梨県・小淵沢)は、映画『プラダを着た悪魔』(2006年)、米テレビドラマ『セックス・アンド・ザ・シティ』(1998年-2004年)で、衣裳デザイナーおよびスタイリストとして、アカデミー賞衣裳デザイン賞ノミネート、エミー賞衣裳賞を受賞するほか、現在Netflixで公開中のテレビドラマシリーズ『エミリー、パリへ行く』(シーズン1、2)Netflix(2020、2021年)で活躍するパトリア・フィールドが、半世紀をかけて蒐集したアートコレクションを紹介する展覧会「ハウス・オブ・フィールド」展(期間:2023年6月3日[土]から2024年5月6日[月])を開催します。



Photo by ©Tina Paul

ニューヨークに生まれ育ったパトリア・フィールドは、24歳の時に初めて自身のブティック「パンツ・パブ」をオープンしました。このブティックは、のちに自らの名を冠した「パトリア・フィールド」となり、イースト・ビレッジを中心に移転を繰り返します。そして場所を移しながら「ハウス・オブ・フィールド」と呼ばれるコミュニティを形成していきました。「ハウス」は、1970年代以降のニューヨークのアンダーグラウンドシーンで、黒人やラティーノのLGBTQ+コミュニティで、“従来の枠組みに囚われず生活を共にする集団がその結束を示す言葉”として使われてきた言葉です。現在も「ハウス・オブ・フィールド」には、パトリア・フィールドを中心に彼女のブティックに所属するスタッフやデザイナー、アーティスト、美容専門家、彼女を慕う人々のコミュニティとして健在しています。

パトリア・フィールドは作品を購入することでアーティストたちを支え、アーティストたちも彼女を敬愛しポートレートを贈りました。それらの個性豊かなアートが、壁やショーウィンドウ、試着室の扉

にいたるまで空間全体を彩るブティックは、2016年春に惜しまれながら閉店し、彼女のアートコレクションの主要作品約190点が2016年に中村キース・ヘリング美術館に収蔵されました。

本展では、パトリア・フィールドが半世紀をかけて集めたコレクションから、日本初公開作品を含むペインティングや写真、オブジェなど約130点を公開します。人間の欲望をポジティブなエネルギーに変換するかのようなパワフルな作品は「自分らしく生きることとは何か」を問いかけ、本展を通してパトリア・フィールドの歩んできた道のりや想いを発信します。

• 3つの見どころ

1. 多様な作家による作品をティナ・ポールの写真とともに紹介

80年代以降、ニューヨークのナイトライフを記録し続ける写真家ティナ・ポールの写真とともに、パトリア・フィールドのアートコレクションを紹介します。アメリカを代表するアニメーション映像作家であり画家としても知られるスーザン・ピットなど著名な作家から、無名の作家まで、幅広い作品を蒐集してきたパトリア・フィールド。彼らにとっての「家」である「ハウス・オブ・フィールド」の「母親」として、パトリア・フィールドは生活の場や表現の場を提供してきました。パトリア・フィールド・アートコレクションは、そうした親密な関係のなかで構築されてきました。



Photo by ©Tina Paul



スーザン・ビット、《ジョーカー》、制作年不詳、235.4 × 184.8 cm



ポール・チェルスタッド、《ボールルーム・ペインティング・シリーズ》、1988年、229.0 × 489.1 cm



リチャード・アルバレス、《無題》、制作年不詳、50.0 × 337.5 × 0.9 cm



作者不詳、《ミラーマネキン》、制作年不詳、177.0 × 143.0 × 60.0 cm



マーティーン、《カット・アウト・ガール》、制作年不詳、76.3 × 216.9 × 2.0 cm



スザンヌ・マルーク、《演説家—マルコム・X》、1984年、127.5 × 138.5 cm

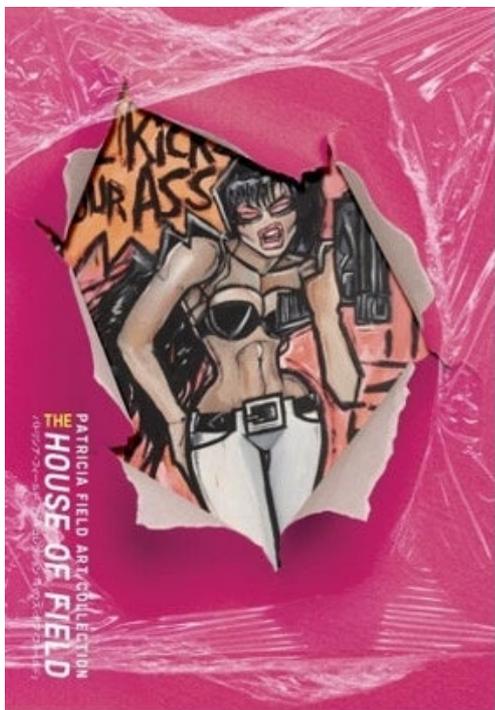
2. 1980年代中期のブティック「パトリア・フィールド」の記録映像展示とブティックの再現インスタレーション



Video for Pat Field by Nelson Sullivan

本展では、ネオンサインやマネキンなどブティックで使用されていた小道具を用いたインスタレーションで、個性豊かなハウス・オブ・フィールドの人々とアートで溢れたブティックの雰囲気再現します。展示室では、ダウンタウンのクラブやアートシーンを記録したビデオグラファー、ネルソン・サリバンによる1980年代中期のブティック「パトリア・フィールド」の映像を常時放映し、パトリア・フィールドやブティックのスタッフ、買い物客らの会話が響く中で作品をご覧ください。

3. コレクションをまとめたカタログを刊行



本展の開催を記念して、パトリシア・フィールドが半世紀をかけて蒐集した作品群から約140点を紹介するコレクションカタログを刊行します。ブティックでも異彩を放っていたコレクションの核となるペインティングや彫刻作品はもちろん、本展に展示されない作品も図版として掲載するほか、アートコレクションの成り立ちを紐解くパトリシア・フィールドへのインタビュー、彼女と親交の深い執筆陣によるエッセイを収録。パトリシア・フィールドと彼女を取り巻く個性豊かなコミュニティ「ハウス・オブ・フィールド」と彼らが作り出す作品を総覧する一冊です。

【書籍概要】

名称	パトリシア・フィールド・アートコレクション「ハウス・オブ・フィールド」
発行日	2023年8月15日
発行	中村キース・ヘリング美術館
執筆	岸雅代（スタイリスト、『Permanent Paper Magazine』エディター・イン・チーフ） 梁瀬薫（中村キース・ヘリング美術館顧問、美術評論家）
ページ数	164頁
価格	3,000円（税抜）
言語	日英

● 展覧会概要

名称	ハウス・オブ・フィールド
会期	2023年6月3日（土） - 2024年5月6日（月）
休館日	定期休館日なし ※展示替え・メンテナンス等のため臨時休館する場合があります。

開館時間	9:00-17:00 (最終入館16:30)
観覧料	大人 1,500円/16歳以上の学生 800円/障がい者手帳をお持ちの方 600円/15歳以下 無料 ※各種割引の適用には身分証明書のご提示が必要です。
後援	米国大使館
特別協力	パトリア・フィールド・アートファッション
同時開催	「キース・ヘリング: NYダウタウン・ルネサンス」展 (2023年6月3日-2024年5月4日)

当プレスリリースURL

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000043.000022359.html>

中村キース・ヘリング美術館のプレスリリース一覧

https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company_id/22359

プレスツアーのご案内

本展開催前日(6月2日[金])に、プレスツアーを開催します。新宿駅よりバスで小淵沢までご案内し、「キース・ヘリング: NYダウタウン・ルネサンス」と、同時開催の、世界的な衣裳デザイナーおよびスタイリスト、パトリア・フィールドのアートコレクションを紹介する展覧会「ハウス・オブ・フィールド」を、メディアの皆様にご紹介いたします。担当キュレーターによる展覧会説明のほか、関連イベントについてもイベント担当よりご紹介いたします。

ぜひ、ご参加賜りますよう、ご検討のほどよろしくお願い申し上げます。

[日程(予定)]

09:00-12:00 新宿駅集合、バス移動(移動中にご昼食)

12:00-14:30 内覧会(2つの展覧会を担当キュレーターがご案内します。)

14:30-15:45 パトリア・フィールドよりビデオメッセージ上映

関連イベントご案内

16:00 内覧会終了(バスで新宿駅までお送りします。)

18:00 新宿駅到着

※詳細なスケジュールは、改めてご案内します。

※ご参加を希望される方は、<https://forms.gle/X5r4WrvnMedXpihG8> より必要事項を

ご記入いただくか、本出欠確認票を pr_nkhc@keith.jp までお送りください。

※お手数ですが【5月19日(金)12:00】までにご返信をいただけますと幸いです。

【本件に関する報道関係お問合せ先】

担当: 田中、木虎、(島田)

連絡先 : pr_nkhc@keith.jp